

学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

1. 新設組織の入学定員設定の考え方及び定員を充足する見込みについて	2
①学生確保の見通しの調査結果(獣医学部を新設する岩手大学のみ実施)	2
②中長期的な18歳人口の全国的、地域的動向	2
③競合校の状況分析(立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況) (獣医学部を新設する岩手大学のみ実施)	4
ア 競合校の選定理由と新規組織との比較分析、優位性	4
イ 競合校の入学志願動向等	4
ウ 学生納付金等の金額設定の理由	5
④既設組織の定員充足の状況	5
2. 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果について	5
①既設組織における取組とその目標	5
②新設組織における取組とその目標	5
③当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数	5
3. 新設組織で養成する人材の社会的要請や人材需要の動向について	6
①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向について	6
②人材需要に関するアンケート調査等	6

1. 新設組織の入学定員設定の考え方及び定員を充足する見込みについて

①学生確保の見通しの調査結果(獣医学部を新設する岩手大学のみ実施)

岩手大学獣医学部の設置を含む学部再編計画について北東北3県及び宮城県の高
校2年生を対象に、令和5年10月31日(火)～11月30日(木)の期間において郵送によ
って実施した。調査は外部機関に委託して行った。調査対象高等学校は、岩手県18校、
青森県6校、宮城県4校及び秋田県2校の計30校である。これは、公立高等学校を中心
に過去の志願状況・出願実績の高い高等学校を抽出したものである。調査対象件数は、
約7,000名となった。(別紙1)

調査の結果、26校(5,021名)から回答があり、岩手大学獣医学部については、国立大
学進学希望者かつ、共同獣医学科を第一志望とした回答が59名となり、設定した定員の
約2倍となったことから、共同獣医学科の定員30名は適当であると考ええる。

②中長期的な18歳人口の全国的、地域的動向

文部科学省による試算(18歳人口及び高等教育機関への入学者・進学率等の推移：
https://www.mext.go.jp/content/20201209-mxt_daigakuc02-100014554_2.pdf)では、令
和7年度の109万人から令和17年度には98万人に減少するとされている。

一方、岩手大学農学部共同獣医学科の過去5年間の志願倍率は前期日程だけでも
3.3倍から5.3倍で推移しており十分な志願者を確保している。(表1-1)

また、東京農工大学農学部共同獣医学科の過去5年間の志願倍率は、前期日程だけ
でも4.7倍から5.7倍で推移しており十分な志願者を確保している。(表1-2)

18歳人口の減少による受験倍率の低下は避けられないが、それを考慮しても獣医学教
育に対する十分な志願ニーズがあり、改組後も安定して学生を確保することが可能であ
る。

表1-1:岩手大学農学部共同獣医学科の志願者状況

試験区分	項目	H31	R2	R3	R4	R5
前期	募集定員	23	23	22	22	20
	志願者数	123	82	73	100	95
	志願倍率	5.3	3.6	3.3	4.5	4.8
後期	募集定員	4	4	3	3	—
	志願者数	101	33	33	38	—
	志願倍率	25.3	8.3	11.0	12.7	—
推薦型 総合型	募集定員	3	3	5	5	10
	志願者数	22	12	40	46	56
	志願倍率	7.3	4.0	8.0	9.2	5.6
募集定員計		30	30	30	30	30
入学者計		34	32	34	33	33
定員充足率		1.13	1.07	1.13	1.10	1.10

※R3年度以降は、推薦型選抜から総合型選抜Ⅱに移行。いずれも2段階選抜を実施。

表1-2:東京農工大学農学部共同獣医学科の志願者状況

試験区分	項目	H31	R2	R3	R4	R5
前期	募集定員	25	25	25	25	25
	志願者数	142	122	139	118	132
	志願倍率	5.7	4.9	5.6	4.7	5.3
後期	募集定員	6	6	6	6	6
	志願者数	120	97	66	99	87
	志願倍率	20	16.2	11	16.5	14.5
推薦型	募集定員	4	4	4	4	4
	志願者数	57	42	53	45	53
	志願倍率	14.3	10.5	13.3	11.3	13.3
募集定員計		35	35	35	35	35
入学者計		39	38	39	39	39
定員充足率		1.11	1.09	1.11	1.11	1.11

③競合校の状況分析(立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況) (獣医学部を新設する岩手大学のみ実施)

ア 競合校の選定理由と新規組織との比較分析、優位性

岩手大学獣医学部の競合校として本学と同じく東北圏内にある北里大学獣医学部獣医学科(青森県十和田市)を選定した。選定理由としては、獣医学を修得すること、すなわち卒業により獣医師国家試験の受験資格が得られるという学問分野の類似性、想定する学生募集地域(東日本を中心とした全国)という所在地の類似性を考慮した。

本学の 신설組織の入学定員は30名であり、競合校の120名と比較すると、圧倒的な少人数教育が可能である。特に獣医学科における教育では、その必修カリキュラムに占める実習・演習の割合が多いため、少人数教育は学生に大きなメリットとなる。また、新設組織の学生納付金535,800円(初年度は入学金282,000円が別途必要)は、競合校の学生納付金2,030,000円(初年度は入学金300,000円が別途必要)に比べると、学生への経済的なメリットも大きい。

イ 競合校の入学志願動向等

北里大学獣医学部獣医学科の過去3年間の入学試験・受験者数、合格者数、入学者数及び定員充足率を表2に示した。志願者数及び受験者数は安定しており、定員充足率も順調に推移している。競合校は私立大学であり、新設組織とは入学試験日が異なることから、志願者の奪い合いが生じることは無く、獣医師免許の取得を希望する志願者の多くは、私立大学と国公立大学の両方に志願する傾向が強い。したがって、競合校における高い志願倍率と既設組織でのこれまでの実績から、新設組織においても十分に定員を充足できると考えている。

表2: 北里大学獣医学部獣医学科の入学試験結果の概略

	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
志願者数	1,882	2,012	2,077
受験者数	1,807	1,947	2,010
合格者数	474	420	430
入学者数	131	131	131
定員充足率	1.09	1.09	1.09

※北里大学入試ガイド 2021-2023 からデータを引用した。

ウ 学生納付金等の金額設定の理由

岩手大学獣医学部における学生納付金の額は、岩手大学の他の学部(人文社会科学部、教育学部、理工学部、農学部)と同様に、「国立大学等の授業料その他の費用に関する省令」に定める標準額と同額に設定する。

④既設組織の定員充足の状況

共同獣医学科は、そのカリキュラムに占める実習・演習の割合及び必修のカリキュラムが多いため、施設・設備の容量の関係から、適正に獣医学教育の行える人数として入学定員を設定している。平成31年から令和5年までの過去5年間の実績も志願倍率、定員充足率ともに、問題ない数値で推移している。(表1-1、表1-2)

2. 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果について

①既設組織における取組とその目標

岩手大学農学部共同獣医学科では、将来の志願者になり得る高校生を対象に、本学への志願及び受験につなげることを目的として、希望のあった高校に対して本学農学部教員(獣医系教員)が訪問し、岩手大学における講義のイメージを掴んでもらうための模擬講義を実施している。この取り組みは主として実際にキャンパスに足を運ぶことが難しい遠方の高校生が主なターゲットとなっている。また、近隣の高校生、受験生及びその保護者に対しては、毎年オープンキャンパスを開催し、キャンパス及び研究室を見学してもらい大学進学イメージを明確化してもらうとともに学部及び各コースの概要説明、入試説明を実施し、志願者の獲得に向け努力している。

東京農工大学農学部共同獣医学科においても、近隣の高校生、受験生及びその保護者を対象としたオープンキャンパス及びキャンパスツアーを開催し、キャンパス、研究室、農学部附属動物医療センター及び厩舎を見学してもらうとともに、学科教員による学科の概要を説明している。またオープンキャンパスにおける説明会の動画を本学ウェブサイトを通じて公開し、遠方に在住する高校生及び受験生にも本学科の概要を理解してもらうことで、さらなる志願者の確保に向けて努力している。

②新設組織における取組とその目標

新設組織においても基本的には同様の取り組みを展開する予定である。

③当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

これまでの志願倍率及び定員充足の状況から従前どおりの取り組みでも十分に志願者を確保できると考えている。

3. 新設組織で養成する人材の社会的要請や人材需要の動向について

①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向について

現在、産業動物臨床獣医師及び産業動物に関わる家畜衛生や公衆衛生分野における獣医師の不足は深刻化している。獣医師に対する社会的需給については、「獣医師の需給に関する検討会報告書(農林水産省、平成 19 年5月)」において、産業動物診療の獣医師数は約 600 名程度不足し、家畜衛生や公衆衛生分野における公務員獣医師数は、その定員数に変化はないとしても、退職者数をカバーできない新規就業者数で推移し、慢性的な要員不足に陥るとされており、獣医師の職域偏在化の是正が求められている。さらに、口蹄疫対策検証委員会報告書(農林水産省、平成 22 年 11 月 24 日)においては、産業動物に対する獣医学教育でその意義や魅力についての教育機会が少ないこと、大学での実習や卒後研修が不十分であることなどの教育システムの不備から獣医師の職域偏在化が進んでおり、獣医学系大学における産業動物に関する実習の強化、研修の強化などにより産業動物に関する獣医療体制を実効あるものとするように強化推進すべきとの指摘がなされている。一方、伴侶動物の診療獣医師数は、ほぼ充足もしくはやや過剰とされているものの、2010 年におけるイヌの飼育頭数は 1,277 万頭(推定値)、ネコの飼育頭数は 1,088 万頭(推定値)を数え、年間診療回数は平均でイヌ 3.3 回、ネコ 2.0 回となっており、獣医療技術の高まりに伴うイヌ、ネコの高齢化、コンパニオンアニマルとしてのイヌ、ネコに関する飼育者の高まりなど、基幹病院としての大学附属動物病院の機能付与などによる、高度な先端的医療技術開発のニーズが高まってきている。

上記の理由から、産業動物に関わる獣医師及び高度先端獣医療を担う獣医師の養成は社会的要請であるといえる。

②人材需要に関するアンケート調査等

過去5年間における獣医師国家試験合格率は、岩手大学では平均 91.4%、東京農工大学では平均 92.2%となっている。(表3)また、就職実績は以下の通り(表4-1、表4-2)であり、卒業生の多くが獣医師として活躍している。

表3:過去5年間に於ける獣医師国家試験の結果

		H30	H31	R2	R3	R4	平均
岩手大学	受験者数	30	36	35	30	32	-
	合格者数	29	34	28	28	30	-
	合格率	96.7%	94.4%	80.0%	93.3%	93.8%	91.4%
東京農工 大学	受験者数	42	36	41	35	39	-
	合格者数	42	34	39	33	30	-
	合格率	100%	94.4%	95.1%	94.3%	76.9%	92.2%

表4-1:過去5年間に於ける岩手大学農学部共同獣医学科卒業生の就職状況

進路 \ 卒業年度	H30	H31	R2	R3	R4	平均
卒業生数	30	37	35	30	32	-
公務員獣医師	14	12	7	7	8	-
産業動物獣医師	5	8	5	5	7	-
伴侶動物獣医師	8	11	14	8	11	-
進学者	2	2	0	1	2	-
企業	0	2	2	3	2	-
その他	2	1	7	6	2	-
獣医師就職率※	96.4%	88.6%	74.3%	69.0%	86.7%	82.8%

※進学者を除く卒業生の獣医師就職率

表4-2:過去5年間に於ける東京農工大学農学部共同獣医学科卒業生の就職状況

進路 \ 卒業年度	H30	H31	R2	R3	R4	平均
卒業生数	40	36	37	30	35	-
公務員獣医師	6	9	4	4	5	-
産業動物獣医師	4	2	5	5	2	-
伴侶動物獣医師	12	10	17	13	18	-
進学者	1	3	2	2	1	-
企業	11	7	5	6	8	-
その他	6	5	4	0	1	-
獣医師就職率※	56.4%	63.6%	74.3%	78.6%	73.5%	68.6%

※進学者を除く卒業生の獣医師就職率

人材需要の社会的な動向等においても述べたが、産業動物臨床獣医師及び家畜衛生や公衆衛生分野における獣医師は不足することが予想されている。農林水産省の獣医師の需給に関する検討会報告書(平成 19 年5月)では、産業動物診療獣医師の供給は常に需要を下回り、2040 年には1,000 人程度の産業動物診療獣医師の不足が発生するものと推計されている。その原因は、獣医師の活動分野間の偏在であり、現状では新規参入者の過半数が小動物診分野を活動分野として選択していることから、今後の新規参入者の小動物診療分野への集中が進むものと予測されるためである。このようなことから、家畜衛生分野、公衆衛生分野等の公務員獣医師の確保も今後さらに難しくなっていくものと考えられる。

岩手大学では東北6県の自治体及び農業共済組合(NOSAI)、農学部附属動物医学食品安全教育研究センター事業推進委員の所属機関を対象に令和2年に郵送によって獣医師の需給に関するアンケート調査を実施した。調査は既設組織が所属する農学部学部運営グループが行った。アンケートを送付した全 23 機関から回答が寄せられた。なお、23 機関のうち獣医師を直接的に雇用するのは 21 機関であり、直接的な雇用関係が無いのは2機関であった。

所属機関及び関連団体の現在の産業動物獣医師(家畜衛生を含む)の需給状況について、23 機関のうち不足とする回答は 21 機関であり、いずれも獣医師を直接的に雇用する機関であった。また、不足と回答した機関ではどのような対策を取っているのかの問いに対しては、5機関(家畜保健衛生所のような公的機関)は、畜産職等を配置して業務を補っているという回答であった。また、5機関では退職者(獣医師免許保持者)の臨時雇用や嘱託雇用で対応している。直接的な対策を行っていない場合でも、大学訪問や獣医学科学生の職場体験及び大学訪問による今後の獣医師確保対策、在職獣医師の職場環境の改善策を講じているとの回答があった。

以上のことから、岩手大学獣医学部で養成する人材は社会的に極めてニーズが高いと考えられる。